

「夢追う子どもたちの家」設立にあたって

今回の孤児院の事業は、今までSAJが取り組んできた「学校建設」「生活支援」などとは全くその性質を異にしています。

今までの事業は、彼らの応援団でありましたが、今回の事業は・・応援ではありません。例えるならば、マラソンの沿道で今までは旗を振っていましたが、これからはともに走る伴走者となるからです。

～80人の人生と共に生きる～

この覚悟がなくてはこの事業に 関わるべきではないと考えています。

子どもたちは自ら明るく暮らしたいと思い、自ら幸せになろうとしています。そんな当たり前のことに現地を見てあらためて気付かされました。

「希望」や「夢」と最も遠い彼らにこそ「希望」や「夢」を追わせてあげたい。彼らの「幸せになりたい」という思いがきっとそれを可能にするに違いないと確信しています。

孤児院建設にあたりプノンペンの孤児院の院長と話をしました。140人の子どもたちと奥さんと共に24時間生活し、お金の工面も決して楽ではなく、寝る時間以外365日すべての時間を孤児院のために費やしているそうです。「大変でしょう」と語りかけると、「毎日毎日いろんな問題が起きます。寝る時間ありません。大変といえば本当に大変です。」ここで彼は言葉を切り、子どもたちと一緒に勉強をしているという日本語で大きな声で「でも、本当に幸せです。」とゆっくりと言いました。彼こそが孤児で、孤児院で育てられたそうです。

心が震えました。“しあわせ”の意味を彼から教わりました。このしあわせを求め、孤児院をオープンします。この「夢追う子どもたちの家」は“80人の子どもたちの幸せのためだけ”に運営します。そのために、自立した人間を育て、しっかりした生活習慣、あるべき人格を身につけさせ、家族の愛を知らない子どもたちに、家族に負けない愛を注がせてもらおうと考えています。

公益財団法人 School Aid Japan
代表理事 渡邊美樹

